


**研究者総覧：村尾 玲美 (MURAO, Remi)**

氏名	村尾 玲美 (MURAO, Remi)	
職名	准教授	
所属講座	英語高度専門職業人コース	
学位（専攻分野）	博士（学術）・名古屋大学	
メールアドレス	<a href="mailto:murao@nagoya-u.jp">murao@nagoya-u.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/murao.html">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/murao.html</a>	
研究分野	第二言語習得論	
	外国語教育	
現在の研究テーマ	音声言語の認識におけるプロソディの役割	
所属学会	全国英語教育学会	
	環太平洋応用言語学会	
	言語科学会	
主要著書・論文	Towards the assessment of the use of prosodic cues in speech recognition. Proceedings of the 14th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, 260-262, 2009.	
	The essential role of prosodic representation of lexical phrases in speech recognition. Proceedings of the 13th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, 67-70, 2008.	
	NICE のレベル別データを用いた of の使用分析. 杉浦正利 (代表)『英語学習者のコロケーション知識に関する基礎的研究』日本学術振興会平成 17、18、19 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究報告書 91-104, 2008.	
	ゲーティング法を応用した英語リスニング能力の要因分析. STEP Bulletin, 18, 61-76, 2006.	
	L1 influence on learners' use of high-frequency Verb + Noun collocations. ARELE, 15, 1-10, 2004.	
自己紹介文	<p>第二言語習得研究のうち、主に言語処理過程についての実証研究を行っています。学習者はどのような単位で音声言語を処理しているのか、どのような音韻的手がかりを用いて心的辞書における語彙表象との照合を行っているのか、またその音声言語認識のメカニズムは母語話者とどのように違うのかについて探っています。話し言葉の処理だけでなく、書き言葉の処理についても共同研究を行い、一定の成果をあげることができました。</p> <p>研究以外のライフワークとして、バイオリンを弾き続けています。</p>	

子供のころスズキ・メソッドでバイオリンを習い始めてから、大学ではオーケストラでコンサートマスターを務め、留学先でも現地のオケに所属していました。就職してからも職場の人たちとピアノクインテットや弦楽四重奏などの室内楽を楽しんだり、アマチュアオケで年2回の演奏会に出演したりしています。環境が変わっても、一緒に合奏できる仲間が必ず見つかる

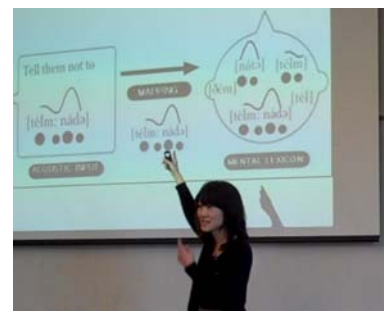


14歳の時購入したチェコスロバキア生まれのバイオリン

というのが楽器の魅力です。また、楽器が弾けるようになる過程と言葉を習得する過程はよく似ており、習得研究について考える上でも役にたっています。例えば、音楽にも言葉にもフレーズがありますが、様々な単位のフレーズを意識して、練習方法を工夫することにより、より流暢な処理ができるようになります。音楽と言語の関係についてはここでは書ききれませんので、興味のある方はぜひ一緒に研究をしましょう。

受験生へのメッセージ

高専人コースでは、現職の英語教員や、今後何らかの形で英語の指導にあたる方を受け入れています。英語を教えるには様々な方法がありますが、その方法にはどのような効果があるのでしょうか。読むのが得意な学習者と不得意な学習者では、何が違うのでしょうか。文法項目の定着と語彙知識にはどのような関係があるのでしょうか。第二言語習得研究では、教える側の立場から考えるのではなく、言葉の習得にあたっている学習者の中で何が起きているのかという、学習者の立場から現象を説明します。例えば英語の上級者と初級者の学習ストラテジーや言語処理方法を比べることにより、初級学習者の抱えている問題点が明らかとなり、どのように指導すればよいかが見えてきます。また、二つの教え方が学習者のアウトプットにどのような違いをもたらすかを比べることにより、より良い教授法を見出すことにつながります。第二言語習得研究では、どのような要因が学習に影響を与えるかについて検証するため、学習者の言葉のサンプルを集めたり、



オレゴン大学にて研究発表

	<p>実験によりデータを集めたりする必要があります。将来英語を教える立場に立つ人も、自ら学習者として継続する人も、第二言語習得のメカニズムについて大学院で勉強することはきっと役に立つと思います。(アメリカ言語文化講座の受験生へのメッセージもあわせて御覧ください。)</p>
--	--